

2024・9・14

発行: 桜本保育園

044(288)2545

えんだより 9がつごう



9月だというのに まだまだ 真夏日が 続いています。 ミストをだしながら テラスや 園庭で あそんでいます。 いつのまにやら 水遊びや どこんこ遊びに 発展しています。 園庭のミストは シャワーのように たくさん出てしまうので すぐに だるだるになってしまいます。 でも 止めると 暑くて 10分も 遊んでいただけません。 みずあそびの 終わりは いつになるのでしょうか？

家庭保育の 協力をいただきながら 7日は 全職員 (さくらっこ保育園の職員も一緒に) で 肌トラブルの 研修を受けました。 今年は 手足口病が 途切れることなく 続き 2度3度かかる 子もいて 不思議だったのですが 手足口病の ウイルスの 種類が 3つほどあり 型が 違うと 何度でも かかるのだそうです。 ヘルパンギーナも 同じウイルスだ そうです。 両方とも 風邪の 症状から 始まります。 症状が 治まっても 菌は 一か月ほど おなかの なかに とどまっ て 便と一緒に 外に出るのだ そうです。 おむつ交換や こどものお尻を 拭いたあとの 手洗いは 一か月は 丁寧に した方が いい そうです。 予防としては 手洗いや 消毒を 徹底し、 おなかを 清潔に 保つこと、 食生活に 気をつけること、 症状が 治まるという ことは 菌との 戦いが 終わったという こと 「おつかれさん」と もう 一歩 ゆっくりして 免疫力を 100%に しておくと 次の 予防に つながります。

スキンケアについても 学びました。 肌が 荒れているときに 持ってきて くださる ワセリンなどの 油は かかさした 肌に ぬると かかさかさが 保たれて しまうのだ そうです。 化粧水や クリームなどで 保湿した 後に 肌を守る ために 使うもの だそうです。 かかさかしている ときは 市販の クリームで 充分 だそうです。

おうちみなさんの 協力で 多くの 職員で 学ぶ機会を 持つことが 出来ました。

ありがとうございました。(P)

News・おしらせ・알림・balita

☆9月の予定

6日(金) へんにむふぁみりーじよいかるでい

7日(土) 職員 夏季研修

(家庭保育のお願い)

18日(水) 園児健診

19日(木) わくわくひろば

☆10月の予定

12日(土) 幼児 運動会

(家庭保育のお願い)

16日(水) ひとみ座人形劇

10月12日(土)

幼児 運動会~からだづくりフェスティバル~

さくら小の 体育館で リズム・サーキット・ブンムルノリを 楽しみます。

おうちみなさんを 全員招待したいのですが 大人が多い ことで 緊張してしまう 子どもたちも たくさんいるので 家族の代表の人が 見に来て ください。

この日の 土曜保育は おべんとうに なります。



9月1日 関東大震災の時に
根も葉もない うわさが流れ それを
信じた多くの人が 朝鮮人を たくさ
ん 殺しました。そんな中 うわさを
信じず 地域に住む朝鮮人を 守って
くれた人たちもいます。私たちが
SNSのフェイクニュースにまどわされ
ず 行動したいですね。

☆ 今月の聖句 ☆

「たとえわたしたちの“外なる人”は衰えていくとしても、わたしたちの“内なる人”は日々新たにされていきます。」(Ⅱコリ 4:16)
短い夏を送って、秋を迎えようとしています。9月になると、どうしても「敬老の日」を覚えるを得ません。私共の家族に年をとっている方達がふられます。年をとるとは、肉体的に、日々衰えることをまぬがれることはできません。キリストの使徒、パウロも困難な人生を経験しながら、自らの老年による弱さを存直に告白しています。
しかし、パウロは老年を弱さだけでとらえない。日々生まれ変わる、「内なる人」の新たにされる秘密を語ります。それは人生を長年生きて、人が生きることは単に自力でなく、神に生かされる恵みを知らされる。それは全く若々しい生き方です。父母の皆さんも、この内なる若さを大切にして下さい。
園長 李 仁夏

一粒の麦から (園長 金性済)
「はきり育てておく、一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。死ぬのは、多くの実を結ぶ。」(ヨハネによる福音書 12:24)

1993年度



だ
よ
り
9かつぶう
2000ねん
9かつ4にち
さくらもと
ほいくえん
9/17 PM 2:00~
保護者会主催の
スポーツ大会が桜
本小学校であり
ます。

こどもの時に 関東大震災の
ときに見た 朝鮮人の姿への想い
が 浜町伝道所につながり その
あと川崎教会が 建てられると
いう歴史が 保育園のまえに
つながっているのですね。
貴重な資料ですね。

残存のつづく9月のはじめによみがえる記憶があります。77年前の9月1日、関東地方に
生きる多くの人の命をのみ込み、建物を破壊した関東大震災という大地が起り
ました。その地震の後、日本の軍隊の上層部の人達が流した情報によって、日本の軍隊
とものすこい不安の中、自衛隊を組織した日本の民族が、何千人もの朝鮮人を殺害するとい
う恐ろしい出来事が起こったのです。その犠牲者を記念する集事が今年も行われています。
しかし、子どものころに川崎の端のそばで、アイゴ、アイゴと手を舞って踊らされて
いる朝鮮人の人達を見かける恐怖の思い出に心をなやませながら教師になっていったひと
りの日本人がいました。倉持芳雄教師です。神戸で教師になる勉強をした後、川崎に異
てきてしばらくしたころ、日本鋼管などで当時働いていた朝鮮人クリスチャンが自分たち
の同僚の教会と伝道のために力を貸してほしい、という願いをある日本の教会に伝えた
た。そのとき、倉持教師は「おれが行きます」という願いを出したのです。倉持教師はハン
グ(韓国語の文字)の読み方を覚え、日本語の読解も朝鮮語に翻訳してもらい、60人を起
える朝鮮人クリスチャンと共に礼拝を営む浜町伝道所の日本人教師となりました。1942年
のことです。しかし、川崎警察はその礼拝を国策の方針に反すると決めつけ、朝鮮人信徒
を捕まえ、拷問にかけ、倉持教師を海軍に連れて行って、1944年に伝道所を閉鎖しま
した。
しかし、1945年に戦争が終り2年が過ぎ、そのころ朝鮮に帰れなくて川崎に残
った8000名ほどの在日朝鮮人のために川崎教会が建てられました。そして、それから
22年が過ぎ、桜本保育園が川崎教会に誕生しました。
関東大震災 朝鮮人殺害、浜町伝道所、川崎教会、そして桜本保育園の歩みを振
り返ると、そこに、一粒の麦は死んで、多くの実を結ぶ、というイエスキリストの言葉がよみが
えります。



こんげつ
今月の
ふあと
フォト